

**製品名: STK11 マウスモノクローナル抗体**

**カタログ番号: AMM80925**

研究使用のみ

## 概要

|        |   |
|--------|---|
| 説明     | マウスモノクローナル抗体                                      |
| 宿主     | ねずみ   |
| 応用     | WB,ELISA,FC                                       |
| 反応性    | 人間、ネズミ、サル   |
| 標識     | 非共役   |
| 修飾     | 未修正   |
| アイソタイプ | Mouse IgG1  |
| クローン性  | モノクローナル   |
| 形態     | 液体  |
| 濃度     | 1mg/ml  |
| 保存     | アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送     | 氷袋  |
| バッファー  | 0.03%アジ化ナトリウムを含む PBS。                             |
| 精製     | アフィニティー精製   |

## 応用

|      |   |
|------|---|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400 |
| 分子量  | 54kDa   |

## 抗原情報

|              |                                |
|--------------|--------------------------------|
| 遺伝子名         | STK11                          |
| 別名           | PJS; LKB1; STK11               |
| 遺伝子 ID       | 6794.0                         |
| SwissProt ID | Q15831                         |
| 免疫原          | 大腸菌で発現したヒト STK11 の精製された組み換え断片。 |

## 背景

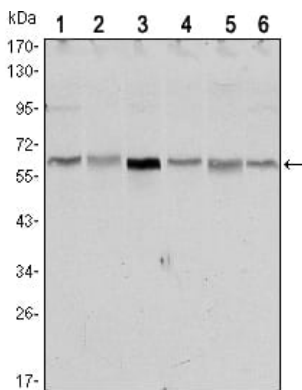
G1 細胞周期停止に必須の役割を果たす。AMPK 関連サブファミリーのタンパク質キナーゼをリン酸化および活性化する。腫瘍抑制因子。セリン/スレオニンキナーゼ 11 は、2つの選択的スプライシングアイソフォームを有し、あらゆる組織で発現する。アフリカツメ

ガエル初期胚キナーゼ 1 (XEEK1) と強い相同性を示す。過誤腫症候群および左側結腸発癌における腫瘍抑制遺伝子であり、散発性精巣癌、悪性黒色腫、喉頭腫瘍で変異が認められ、卵巣癌の発症にも軽微な役割を果たす。LKB1 は、アテローム性動脈硬化症および癌の潜在的な標的であり、ポイツ・イエガース癌症候群の患者で変異が認められる。組織特異性：普遍的に発現する。精巣および胎児肝臓で最も強く発現する。

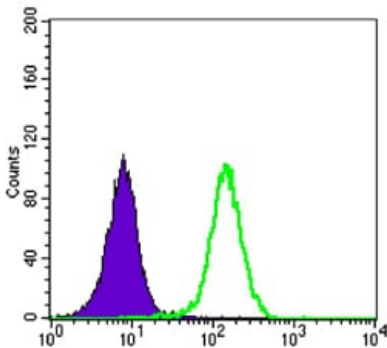
## 研究分野

オートファジー、アポトーシス、PI3K-Akt シグナル伝達経路

## 画像データ



NIH/3T3 (1)、Raw246.7 (2)、COS7 (3)、Jurkat (4)、HEK293 (5)および A431 (6)細胞溶解物に対する STK11 マウス mAb を用いたウエスタンブロット解析。



STK11 マウス mAb (緑) とネガティブコントロール (紫) を使用した K562 細胞のフローサイトメトリー分析。